2019年度 芸術学研究科造形芸術専攻 修了
田原（たはら） 千帆（ちほ）
「両頭愛染曼荼羅
（奈良国立博物館所蔵 - 現状模写）」
（日本画）
（921mm×394mm･絹本著色 軸装）
2019年度 修了制作
優秀賞

3つのひかり　未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

丁寧に
一人ひとりを大事に
社会との関わりの中で
学生を育てます

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
TEL:082-830-1500(代)　FAX:082-830-1656
http://www.hiroshima-cu.ac.jp/

市大の平和に関する講義

本学は、人類史上最初の核兵器による被爆を経験した都市としての歴史を背景に、広島平和研究所を設置し、平和に関する講義を開設しています。ここではその一部を紹介します。

世界平和への貢献を建学の理念に掲げる広島市立大学は、「平和科目」として次の科目を開講し、全ての学生が最低１科目は履修することにしています。①平和と人権Ａ（ヒロシマと国際平和）、②平和と人権Ｂ（現代世界と人権）、③広島からの平和学：実践の方法、④平和インターンシップ、⑤国際化時代の平和の５科目です。①と②は学内・学外の専門家による講義、⑤は広島平和研究所教員によるオムニバス講義、③と④はキャンパスの外で学ぶ講義です。

広島からの平和学

広島にある大学の特性を生かし、広島で行われる多様な平和活動を実践されている方から、具体的な方法論を学ぶことを目的に、2009年に開講しました。最大の特徴は広島平和文化センターが主催する市民講座「ヒロシマ・ピースフォーラム」と連携し、土曜日の午後に、広島平和記念資料館会議室で開催される同講座に、学生が参加する形で実施していることです。通常は前期または後期の土曜日に６回（隔週）、13:30～17:00の時間帯に行います（年度により変わりますのでシラバスで確認してください）。

毎年、異なるプログラムを企画しているのも特徴です。被爆体験証言者、研究者、市民活動の指導者、メディア関係者、青年海外協力隊経験者など、さまざまな専門家を講師に招いています。参加者は例年、一般市民（20～ 70代が中心）50～ 60人と本学学生30～ 40人ですが、今年はコロナ禍でそれぞれ40人、20人に制限しました。今年も市民と学生を含む7、8人のグループに分かれて討議や報告を行います。このグループ討議には最近、学生の関心が集まっています。

今年の講師陣は出山知樹・NHKアナウンサーや永井徳三郎・長崎市永井隆記念館館長、本学出身の平尾順平・ひろしまジン大学代表理事、元五輪代表の曾根幹子・本学名誉教授など多彩な顔ぶれがそろっています。来年は、一緒に学んでみませんか。

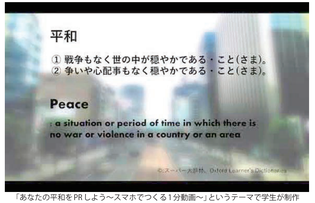
広島・長崎講座

広島・長崎の被爆の実相を伝え、その被爆体験を学問的に考察・検証する内容の講義を毎年実施している大学・大学院に対し、広島・長崎両市がその講義を「広島・長崎講座」として認定し、教材の提供や講師の紹介・派遣などの支援をしています。2020年３月末現在、国内51、海外24の大学で認定講座があり、本学では最も多い９科目が同講座に認定されています。

「広島からの平和学」講義風景（2016年７月 撮影）

平和学研究科博士後期課程の開設

広島平和研究所に2019年４月、大学院平和学研究科修士課程が開設したのに続き、2021年４月より大学院平和学研究科博士後期課程がスタートします。平和学や国際政治学、国際法学、国際関係論等の分析手法を修得し、現実の諸問題を専門的・総合的に分析することのできる人材。いわば平和のプロフェッショナルを養成することで、平和創造および平和維持に貢献することを目指します。



「あなたの平和をPRしよう～スマホでつくる１分動画～」というテーマで学生が制作したスマホ動画の一コマ（広島市立大学ウェブサイトより）

平和インターンシップ

広島平和文化センター主催の市民講座と連携した集中講義「広島からの平和学：実践の方法」の後期日程として、2011年度まで課外活動として実施されていましたが、2012年度から単位が認められるようになった集中講義です。

広島市周辺にある平和や戦争、原爆被爆などについて学べる施設や史跡などに足を運び、実際に見学しながら専門家から講義を受けることで、平和に関する問題を多角的に学ぶフィールドワークと、2019年度から開始した「あなたの平和をPRしよう～スマホでつくる１分動画～」という動画制作を中心とする連続ワークショップを実施します。

動画制作は、2019年度はグループに分かれての制作でしたが、2020年度は各受講生が制作をしました。外出自粛による制約も少なくないなか、47本の作品が生まれました。今年度に制作した動画の一部は大学ウェブサイトに掲載しています。

平和について話したり考えたりすることに抵抗感を持ちながら受講する学生も少なくありませんが、フィールドワークと動画制作を通じて、平和に関する問題を自分ごととして捉えられるようになった学生もいます。「平和インターンシップ」は、平和に対する捉え方が変わる一つのきっかけとなるはずです。

「あなたの平和をPRしよう～スマホでつくる１分動画～」で今年度制作した動画の一部を大学ウェブサイトにて公開していますので、ぜひご覧ください。

https://www.hiroshima-cu.ac.jp/news/c00021219/

学生による教員紹介

本学の教員の研究やこれまでの取り組みについて、学生自らが取材をしました。
今回は３学部の中から、芸術学部の城井文講師を紹介します。

『たった５秒のアニメーションの、動く喜びに魅せられて』
芸術学部デザイン工芸学科 映像メディア造形３年
原（はら） 彰吾（しょうご）

今年度、新たに芸術学部の講師として、城井文先生が着任されました。城井先生はアニメーション作家として多くの作品を手掛けられており、中でも2007年に制作された秋元康氏の小説『象の背中』から派生したアニメーション「象の背中―旅立つ日―」は反響を呼び、ヒップホップユニットRAM WIREの楽曲「僕らの手には何もないけど」のミュージックビデオはYouTube再生回数500万回を記録し、NHKの番組『みんなのうた』のアニメーション「大好きって意味だよ」、また最近では絵本など、優しい色彩と手描きが特徴の作風で活躍されています。今回は、城井先生から指導を受けている私が、作家としての城井先生を取材しました。

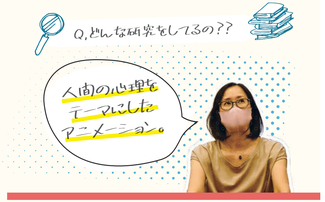
東京生まれの城井先生は、子どもの頃から映画が好きで、中学時代は近所にあった映画館で２本立ての上映をよく見ていたそうです。浪人時代はユーリ・ノルシュテイン氏やキャロライン・リーフ氏などのアニメーション作家に影響を受け、テレビ『まんが日本昔ばなし』やアーティスティックなCMなども好んで見ていたそうです。

2019年放送「大好きって意味だよ」（NHKみんなのうた）©NHK/城井 文

その後、東京藝術大学美術学部デザイン科に進学されましたが、進学時はアニメーション作家になりたいと思っていなかったそうです。アニメーション制作を仕事にしようと思ったきっかけは映像制作の授業で、５秒間の手描きアニメーションに挑戦してみたところ、自分の描いた絵が動くことにとても感動し、そこからアニメーションの世界に魅了されたそうです。また、竹内整一先生の倫理学の授業は今でも活動の指針になっており、授業で読んだ志賀直哉の『ナイルの一滴』や室町時代の『関吟集』などから学んだ、この世を夢と見る「あの世とこの世のあわい」、日本ならではの生死観は、作家としての基盤になっていると言います。その後、大学院に進学され、修了後はフリーランスのアニメーション作家として活動されます。

城井先生の仕事の進め方は、ミュージックビデオ制作の場合、１作品およそ２カ月半の期間で、10人ほどの少人数で制作されているとのこと。音楽やナレーションもご自分で手配することもあるそうです。絵本の制作は、ほぼ一人で行うそうです。アニメーションより絵本のほうが制作しやすいようにも思えますが、動きを一つ一つ描いて表現するアニメーションより、１枚の絵から状況を理解してもらわなければならない絵本制作の方が大変だと言います。

また、今回の新型コロナウイルス感染症の流行による影響については、仕事はほぼデータのやり取りで行うため影響は少なかったそうですが、前期からのオンライン授業では慣れないことばかりで準備が大変だったそうです。



今後は市大で教鞭をとりながら、人間の心理をテーマにした自主制作に力を入れていきたいと言います。素材の質感やアナログ技術が生む、予想できない面白味を表現し続けたいとのことです。

今まさに勉学に励む学生の皆さんへのメッセージとして、自分の専攻だけでなく、別の専攻の先生の授業を受講したり、大学の施設を十分に活用して学ぶ喜びを感じてほしいと言います。城井先生自身、大学時代はサークル活動や遊びに費やした時間が多かったそうですが、卒業してから大学で学べることの大切さに気付いたそうで、西洋・東洋美術史は勉強しておけばよかったとのことです。また、今でも大学の先輩や後輩と仕事をすることがあることから、学生たちにはゼミはもちろんサークルなどを通じた先輩・後輩とのつながりを持ってほしいと話されました。

取材が終わった後も、城井先生おすすめの映画やサークルの話をしたり、私の作品を見ていただいたりと、さまざまなことを教えていただきました。これからも、一人のアニメーション作家として活動を続けながら学生一人一人と向き合う城井先生に学び、私自身の成長にしていきたいです。

原（はら） 彰吾（しょうご）
芸術学部 デザイン工芸学科
映像メディア造形３年

城井 文（しろい あや）
芸術学部 講師

広島市立大学 広報誌 『west breeze』

W.B.

2020-03　No.82

Hiroshima City University

活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

旅と語らいと私

ひろしまジン大学 代表理事　平尾（ひらお） 順平（じゅんぺい）さん（国際学部国際学科2000年度卒業）

本学の国際学部を卒業後、海外で勤務され、その後広島に戻り、2010年にひろしまジン大学を設立。2020年10月には本学の国際学研究科に進学されるなど、幅広く活動される平尾さんにお話を伺いました。

―広島市立大学を志望した理由を教えてください。

器械体操に熱中していた中学、高校生の頃、当時圧倒的に強かった旧ソ連や中国の選手を見て、いったいそれらの選手はどんな生活や練習をしているんだろうと思い、そのあたりから漠然と「世界」「海外」に興味を持ちました。そんな折、通っていた高校の近くに「国際学部」のある大学が新設されたらしいという情報を聞きつけ、受験したのが市大です。まだ2期生で、これから自分たちで大学を作っていけるんだ！という「可能性」は大きな魅力でした。真新しく美しいレンガ色の校舎と、その前に広がる、昼寝したくなるような青々とした芝生は、イメージしていた大学そのものでした。

―大学時代どのようなことを学びましたか。

授業中に学んだことはたくさんあるのですが、印象深い学びは授業以外の時間で先生や同級生との語らいの中にあったように思います。働くということ、生きるということ、日本について、世界について、経済とは、政治とは、平和とは、などなど授業で教わったキーワードなど題材に、同級生の家に集まっては、夜な夜な終わりのない議論をしていました。このギュッと集い、語り合える感じも、お互いの顔が見えるという安心感のある、小規模大学ゆえのいいところだと思います。

―大学時代の思い出を教えてください。

旅の途中の平尾さん

3年次になり、同級生たちが就職活動を始めた頃です。国際学部なのに、当時は海外からの留学生も少ないし、国外との接点はほぼなく、このまま大学生活を終わってしまっていいのだろうか、というモヤモヤがありました。そんな思いを、ご自身も学生時代にインドを放浪したというゼミの先生に相談したところ、君も外に出てきたら？と勧められ、1年間休学をしてユーラシア大陸横断の旅をしました。いろいろと大変な目にも遭いましたが、旅の途中での出会いがキッカケで、卒業後は国際協力の仕事に就いたことも含め、この旅なくして今の自分はないほどの大きな経験でした。

―「ひろしまジン大学」について教えてください。

「大学」と称してはいますが、特定の校舎を持っているわけでも、入学試験や卒業があるわけでもありません。広島に関わる誰もが先生であり、誰もが学生である、というコンセプトの下、広島県全域を大きなキャンパスと捉えた学びの仕組みです。さまざまな人たちが活動する現場を見学させてもらったり、じっくりお話を伺ったりしながら、当たり前になって見過ごしていた、身近な広島という場所の魅力や課題について、改めて向き合い、楽しみ、考える場です。この「大学」を作った大きな理由の一つは、学生時代の旅やその後の仕事で「外から見た広島」を強く意識するようになったことでした。多くの場所で、広島のイメージが1945年からアップデートされていないことに驚きました。被爆当時のことを知ることはとても大切ですが、そこから今に至る経緯や、現在の広島を知り、学び、伝えることも同じぐらい大切だと思っています。

ひろしまジン大学のイベント時の写真
（スタッフたちと一緒に）

―新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、「ひろしまジン大学」や平尾さんの活動はどのように変化しましたか。

これまで私たちが活動で大切にしてきた「現場を体験する」「集う」「語らう」ということが難しくなったのは確かです。一方で、コロナの前は良かった、と言っていても始まらないのも確かで。今はYouTubeなどを活用し、オンラインでのトークセッションやワークショップを通して、変わらず「人（ジン）」をキッカケとした学びの場づくりを進めています。

―2020年10月に国際学研究科に入学されましたが、大学院進学を決めた理由と今後の活動について教えてください。

NPOを立ち上げて10年という区切りだったので、これまで取り組んできたことを振り返り、まとめる意味も含めて、改めて非営利組織、社会教育について学んでみたいと思ったことがきっかけです。20年ぶりに市大に戻り、自身の半分以下の年齢の同級生たちと学ぶのも、なかなか刺激的です。

―最後に、後輩たちへのメッセージをお願いします。

まちは学びで溢れています！大学ではもちろん、地域で、世界で、さまざまな人と会い、失敗も含めて多くの経験を重ねてください。

平尾順平（ひらお・じゅんぺい）
国際学部国際学科 2000年度卒業。

ひろしまジン大学ウェブサイト
https://www.jindai.hiroshima.jp/

「いちだい」の留学プログラム

広島市立大学では、学生の興味・関心・目的・語学レベルなどに応じて、短期から長期まで豊富な留学プログラムを提供しています。

○海外交流プログラム

期間は1週間～10日間程度で、夏季および春季の長期休業中に実施します。海外の大学の学生との交流やホームステイ体験などを通じて、異文化に触れ、国際交流の楽しさを経験するとともに、英語でのコミュニケーション能力の重要性を認識できるなど、海外渡航未経験者歓迎のプログラムです。2019年度は合計11人の学生が参加しました。このプログラムへの参加をきっかけに、海外交流に目覚め、語学留学や長期留学をする学生も出ている好評なプログラムです。

アメリカ・サンフランシスコ

＜行き先（例年）＞
マレーシアペナン（9月上旬）、アメリカ・サンフランシスコ（9月中旬）、シンガポール（3月上旬）

○短期語学留学プログラム

期間は15～31日間程度（プログラムにより異なる）で、夏季休業中に実施します。海外の大学が提供する語学プログラムに参加し、寮生活やホームステイを体験します。現地で歴史や文化も学び、単位も修得できるので、短期間で語学力アップ+αを目指したい学生におすすめです。2019年度は合計44人の学生が参加しました。

中国・重慶

＜行き先（例年）＞
オルレアン大学（フランス）、ハワイ大学マノア校（アメリカ）、西南大学（中国）、慶北国立大学校（韓国）、モスクワ国立大学（ロシア、隔年実施）

○海外学術交流協定大学等への学生派遣プログラム

期間は半年または1年間で、留学時期は大学により異なります。海外での生活に挑戦してみたい、語学力を本格的に伸ばしたい学生に向けた留学プログラムです。派遣先の大学で修得した単位は、一定の条件のもとで本学の単位に認定されます。2019年度は合計11人の学生を派遣しました。

ドイツ・ハノーバー

（国連平和大学（コスタリカ）のみ最短3週間のコースあり）
＜派遣対象校（2020年10月時点）＞
ドイツ5校、フランス2校、アメリカ1校、カナダ2校、韓国3校、中国4校、マレーシア1校、タイ1校、コスタリカ1校（計9カ国20校）

※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により派遣事業が停止していますが、状況が整い次第、順次再開する予定です。また2020年度後期には、協定校等とオンラインによる国際交流事業を複数回実施します。

留学プログラムには助成制度を利用できる場合があります。
詳しくは国際交流推進センターまたは語学センターへ。

学生リポート

この記事は、「学生広報サポーター」に登録している市大生自らが取材をして執筆しました。

新入生、キャンパスライフついに始まる

情報科学部知能工学科3年　丸（まる） 照正（てるまさ）

9月25日（金）、本学で新入生歓迎行事が行われ、新入生約290人が参加しました。もともとは4月に行う予定であった入学式とオリエンテーションの代わりとして行われたこの行事。入学歓迎式では学長訓示や、学歌の演奏が行われ、その後在学生による留学体験やインターンシップ、広島市立大学塾などの学生生活体験発表がありました。オリエンテーリングでは、1年前期の3学部合同基礎演習のグループに分かれて協力しながら学内をスタンプラリー方式で回りました。

前期はほとんどがオンライン授業となったため、新入生の多数は入試以来の登校、初顔合わせとなりました。参加した情報科学部1年遠山祐也（ゆうや）さんは「友達が作れました。連絡先も交換できたし仲良くなれました。参加できてよかったです」と話してくれました。国際学部の佐久川（さくがわ）愛野（まんの）さんは「同級生と会えてよかったです。実際にキャンパス内を歩いてより市大のことを知ることができました。やっと大学生になれた気がします。発表してくださった先輩方の話し方も上手で、さすがだなと思いました」と嬉しそうに話してくれました。若林学長は「開催できてよかった。1年生の明るい顔を見ることができた。大学にもっと親近感を持ってもらい、市大生としての帰属意識を高めてほしい。今後はオンラインも使いながら教員、在学生を含めいろやっていきたい」と話してくれました。

私自身も久しぶりに朝から登校しましたが、キャンパスに活気があり、本当の大学があるべき姿はこれなのだと改めて感じました。新入生の皆さんにも、無限の可能性を秘めているキャンパスライフを楽しんでもらいたいです。

学内を回る新入生

MOTO MACHI 基町プロジェクト

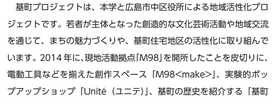
活動拠点 M98（〒730-0011 広島市中区基町 16-17-2-103）
Tel.082-555-8250（OPEN 水曜～日曜）
www.motomachiproject.net
facebook.com/motomachiproject
twitter.com/motomachi_prj
motomachiproject@gmail.com

ウェブサイトでは、これまでの取組もご覧いただけます。

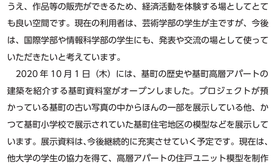
被爆70周年 被爆70周年 まちづくり先導事業

基町プロジェクトは、本学と広島市中区役所による地域活性化プロジェクトです。若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じて、まちの魅力づくりや、基町住宅地区の活性化に取り組んでいます。2014年に、現地活動拠点「M98」を開所したことを皮切りに、電動工具などを揃えた創作スペース［M98<make>］、実験的ポップアップショップ「Unité（ユニテ）」、基町の歴史を紹介する「基町資料室」など、その大部分をセルフビルドで整備しました。旗艦拠点M98には、毎週水曜から日曜まで、非常勤特任教員3名がシフトを組んで出勤しており、年間を通じて、地域の歴史などについて調査したり、デザインやアートの企画を行ったり、地域の方々と交流を深めたりしています。

前期はほとんどがオンライン授業となったため、新入生の多数は入試以来の登校、初顔合わせとなりました。参加した情報科学部1年遠山祐也（ゆうや）さんは「友達が作れました。連絡先も交換できたし仲良くなれました。参加できてよかったです」と話してくれました。国際学部の佐久川（さくがわ）愛野（まんの）さんは「同級生と会えてよかったです。実際にキャンパス内を歩いてより市大のことを知ることができました。やっと大学生になれた気がします。発表してくださった先輩方の話し方も上手で、さすがだなと思いました」と嬉しそうに話してくれました。若林学長は「開催できてよかった。1年生の明るい顔を見ることができた。大学にもっと親近感を持ってもらい、市大生としての帰属意識を高めてほしい。今後はオンラインも使いながら教員、在学生を含めいろやっていきたい」と話してくれました。



拠点の一つ Unité（ユニテ）。空き店舗を学生たちの手により改装しました。利用を希望される方は、お気軽にスタッフまでお問い合わせください。イベント情報は SNS で発信中です。



広島市中央公園で行われている広島市最大規模の発掘調査のため、調査区域内にある樹木が伐採されました。廃棄される樹木の一部を、広島市立大学で彫刻や漆造形を学んでいる学生たちが受け取りました。

新たに開所した基町資料室。場所は M98 の目の前です。写真の他、建築模型、関連資料などを展示しています。今後は、ウェブでの資料公開やオンラインイベントも検討中です。お預かりした写真の一部は、毎年夏に写真展を開催して公開しています。資料室は管理上、普段は施錠しています。ご来場の際には、まずは M98 にお立ち寄りいただき、スタッフにお声掛けください。資料室にご案内します。

増田 純　片倉 馨　浮田 茉衣

「基町写真展」2020年8月1日（土）～8月30日（日）。屋外展示準備風景。今年で第6回となった基町の歴史を紹介する写真展。今年は、基町住宅地区に大小8会場を設け、Zoomイベントを2回開催しました。

おめでとうございます

■本学大学院における博士学位取得者（2020年度秋季修了）

氏名（敬称略）	学　位
梁　丹	博士（学術）
単　禹絡	博士（情報工学）

■本学大学院で認められた論文博士学位取得者（2020年度秋季修了）

氏名（敬称略）	学　位
辻　勝弘	博士（情報工学）

■情報科学研究科の田中宏和教授が情報通信技術委員会（TTC）で受賞

2020年5月、情報科学研究科の田中宏和教授が2020年度情報通信技術賞（TTC会長表彰）を受賞。

■芸術学部の上本佳奈さんが広島県web公募美術展で入選

2020年6月、芸術学部4年の上本佳奈さんが入選。

■芸術学研究科の村上明花里さんが第22回雪梁舎フィレンツェ賞展で入選

2020年7月、芸術学研究科（博士前期課程）1年の村上明花里さんが入選。

■芸術学研究科の古川諒子さんが佐藤国際文化育英財団奨学生に選出

2020年7月、芸術学研究科（博士前期課程）1年の古川諒子さんが令和2年度第30期奨学生に選出。

■国際学部の齋藤穂香さんが第1回一文字書展で入選

2020年7月、国際学部1年の齋藤穂香さんが金賞に入選。

■芸術学研究科の松本千里さんが六甲ミーツ・アート芸術散歩2020で受賞

2020年7月、芸術学研究科（博士後期課程）1年の松本千里さんが準グランプリを受賞。

■芸術学研究科の田中優菜さんが第1回アートパラ深川大賞展で受賞

2020年10月、芸術学研究科（博士前期課程）1年の田中優菜さんが三井住友あいおい生命賞を受賞。

■芸術学部の森下真帆さんが国際邕江美術賞で受賞

2020年10月、芸術学部4年の森下真帆さんが優秀賞を受賞。第41期奨学生に選出。

※学年は受賞当時

市大ニュース

■2020年度特待生が決定

2020年6月、学部2～4年生の各年次から、国際学部3人ずつ、情報科学部5人ずつ、芸術学部2人ずつ、計30人の学生が選ばれました。特待生制度では、成績優秀で、かつ他の学生の模範となる学生を表彰。副賞として奨学金が贈られます。

■情報科学研究科ネットワーク科学研究室の多々納啓人さんが広島市より礼状を受領

2020年7月、情報科学研究科ネットワーク科学研究室の多々納啓人さんが広島市健康福祉局保健医療担当局長より礼状を授与されました。ネットワーク科学研究室では多々納さんが中心となって、広島市と協力しながら、広島市新型コロナウイルス感染症ポータルサイトの構築に携わりました。

広島市新型コロナウイルス感染症ポータルサイト
https://stopcovid19-hiroshima-city.hiroshima-cu.ac.jp/

■中外テクノス株式会社様へ感謝状を贈呈

2020年8月、本学基金に多大な寄附をいただいた中外テクノス株式会社様に、感謝状を贈呈しました。当日は、中外テクノス株式会社本社を訪問し、若林学長から福馬聡之代表取締役社長に記念品を添え、感謝状を贈呈しました。いただきました寄附金は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経済的に困窮している学生を支援するため、応急奨学金を給付する事業に活用させていただきました。

■外部資金の獲得

本学の教員は、国の制度である科学研究費補助金や民間からの研究費などを受けて活発な学術研究活動を行っています。これらの外部資金を活用し、独創的・先駆的な研究に取り組んでいます。

●2020年度科学研究費補助金採択状況＜研究科目別＞

研究種目名	件数	計
基盤研究（A）一般	1	8,450千円
基盤研究（B）一般	6	24,570千円
基盤研究（C）一般	48	58,240千円
若手研究（B）	3	1,950千円
若手研究	8	9,230千円
研究活動スタート支援	1	1,430千円
合計	67	103,870千円

●2019年度受託研究費・共同研究費・補助金・奨学寄附金

区分	件数	金額
受託研究費・共同研究費	52	93,636千円
補助金	2	30,057千円
奨学寄附金	15	13,347千円
合計	69	137,040千円

「WEST BREEZE」へのご意見・ご感想を募集します

広島市立大学　広報委員会
○E-mail:kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp
○Tel:082-830-1666　○Fax:082-830-1656
WEST BREEZEのバックナンバーは、大学ウェブサイト「大学紹介」＞「大学広報」＞「広報誌「WEST BREEZE」」に掲載しています。

広報誌名
広島市立大学広報誌の表紙タイトル「W.B.」（「WEST BREEZE」の略称）は、広島市立大学のある商高新都にちなんで命名されました。
編集・発行／広島市立大学 広報委員会
発行日／2020年12月1日